



16. 混泥土道床施工に於ける道床混泥土填充前の状態

隧道工事 20 年の回顧

日本の様な土地狭小な國では、鐵道建設工事と密接不離な隧道工事が重要視されるのは當然である。隧道工事と橋梁工事を除いたなら、建設工事としての残りは何物でもない位である。

熱海建設事務所長星野茂樹氏が20年前を回顧して「日本の工事で何が一番進歩したであらうか」と云ふ話題を出した。之に對して能く答へ得るものは何人であらうか。

20年前の我が鐵道省の隧道工事は實に希望に輝いてゐた。清水トンネル工事を控へた上越線工事には、當時の東京建設事務所長たる久保田敬一氏を初め、星野氏、瀧淵氏其他有爲の人材に満ちて建設工事としては最も活氣のある所であつた。

隧道工事として有餘の機械設備を思ふ存分に利用したのも當時の鐵道省としては實に異彩を放つたものだ。

上越線の工事では其後清水隧道を完成する迄に

幾多の技術家が思ふ存分に工事をやつて見たのである。其處で幾多の立派な經驗が得られたわけである。

星野氏は其後に丹那トンネル工事に轉じ、今は所長として此宇佐美トンネル工事を完成した。先般は隧道建設の功勞者として長き邊りより敘勳された星野氏である。然し20年を回顧して「何の工事が一番進歩したか」の問題は、中々解けぬらしい。

日本の工事は將來益々隧道のエキスパートを必要とするのである。今や新東亞建設時代に際し、大陸平原の建設のみ夢みて、隧道工事の研究を忘れてはならない。(一記者)